

第4次  
富士宮市地球温暖化対策実行計画  
(事務事業編)

平成30年度結果報告書

令和2年3月

富士宮市 環境企画課 環境エネルギー室

1. 計画の概要

(1) 計画期間

実行計画の期間：平成28年度～令和2年度

本計画の期間は、平成28年度から令和2年度までの5年間とします。

第2次富士宮市環境基本計画との整合を図るため、環境基本計画の中間年度の令和2年度を終了年度とします。

本計画の策定に当たっては、基準年度を平成26年度として削減目標等を定めます。

なお、社会情勢の変化、法改正等により、必要に応じ見直しを行います。

(2) 温室効果ガス排出削減目標

削減目標：令和2年度までに平成26年度比で9%削減する

分野別排出量の削減目標を、次のとおり設定します。

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

排出起源		基準年度実績 (平成26年度)	令和2年度目標	
電気の使用		16,218	電力使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約6%削減します。	15,244
燃料の使用	都市ガス	2,941	燃料使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約3%削減します。	2,842
	LPガス			
	A重油			
	灯油			
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)			
公用車燃料		422	公用車使用による燃料(ガソリン及び軽油)使用量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約6%削減します。	397
プラスチックごみの燃焼		9,357	プラスチックごみの焼却量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約18%削減します。	7,672
その他 ・自動車(エアコン、走行) ・下水、し尿の処理		1,973	可能な限り削減に努めますが、数値目標は定めません。	1,973

(3) 計画の対象物質

本計画では、温対法第2条第3項が対象としている下記の7種類の温室効果ガスを対象とします。

名称	概要	地球温暖化係数 (温室効果)
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	主に石油や石炭などの化石燃料の燃焼により排出されます。エネルギー消費を伴う日々の生活と密接に関係しています。	二酸化炭素の係数 (温室効果)を1とする。
メタン(CH <sub>4</sub> )	水田や家畜の腸内、廃棄物最終処分場における有機物の嫌気性発酵等において発生します。	25
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	化石燃料や一般廃棄物の燃焼、農用地の土壌や家畜排泄物等から発生します。	298
ハイドロフルオロ カーボン類 (HFCs)	冷凍機器、空調機器の冷媒や断熱材等の発泡剤等に使用します。オゾン層を破壊しませんが、強い温室効果があります。	12~14,800 【1,430 (HFC-134a)】
パーフルオロカー ボン(PFCs)	主に半導体の製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
六ふっ化硫黄 (SF <sub>6</sub> )	主に電気絶縁ガスや半導体製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
三ふっ化窒素 (NF <sub>3</sub> )	半導体製造でのドライエッチングやこれらの製造装置のクリーニングに使用。	—

2. 温室効果ガス排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

年度 温室効果ガスの種類	平成26年度 (基準年度)	平成29年度	平成30年度	平成30年度削減率	
				基準年度比	前年度比
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	28,881	25,170	26,437	8.5%削減	5.0%増加
メタン(CH <sub>4</sub> )	1,465	1,466	1,476	0.7%増加	0.6%増加
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	561	546	574	2.3%増加	5.1%増加
ハイドロフルオロカー ボン類 (HFCs)	4	3	3	25.0%削減	変化なし
パーフルオロカー ボン(PFCs)	—	—	—	—	—
六ふっ化硫黄(SF <sub>6</sub> )	—	—	—	—	—
三ふっ化窒素(NF <sub>3</sub> )	—	—	—	—	—
合計	30,910	27,185	28,490	7.8%削減	4.8%増加

※実績値は小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

## (2) 温室効果ガス排出量とその推移

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

排出起源	年度	平成 26 年度 (基準年度)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 30 年度削減率		削減目標
					基準年度比	前年度比	達成状況
電気の使用		16,218	14,685	14,107	13.0%削減	3.9%削減	116.73% 達成
燃料の使用	都市ガス	2,941	2,568	2,563	12.8%削減	0.2%削減	381.81% 達成
	LP ガス						
	A 重油						
	灯油						
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)						
公用車燃料		422	407	403	4.5%削減	1.0%削減	76.0% 順調
プラスチックごみの燃焼		9,357	7,556	9,421	0.7%増加	24.7%増加	-3.79% 要改善
その他 ・自動車(エアコン) ・下水、し尿の処理		1,973	1,969	1,996	1.2%増加	1.4%増加	-1.16% 要改善
合計		30,911	27,185	28,490	7.8%削減	4.8%増加	98.7% ほぼ達成

※実績値は小数点以下を端数処理（四捨五入）しているため、合計と一致しない場合があります。

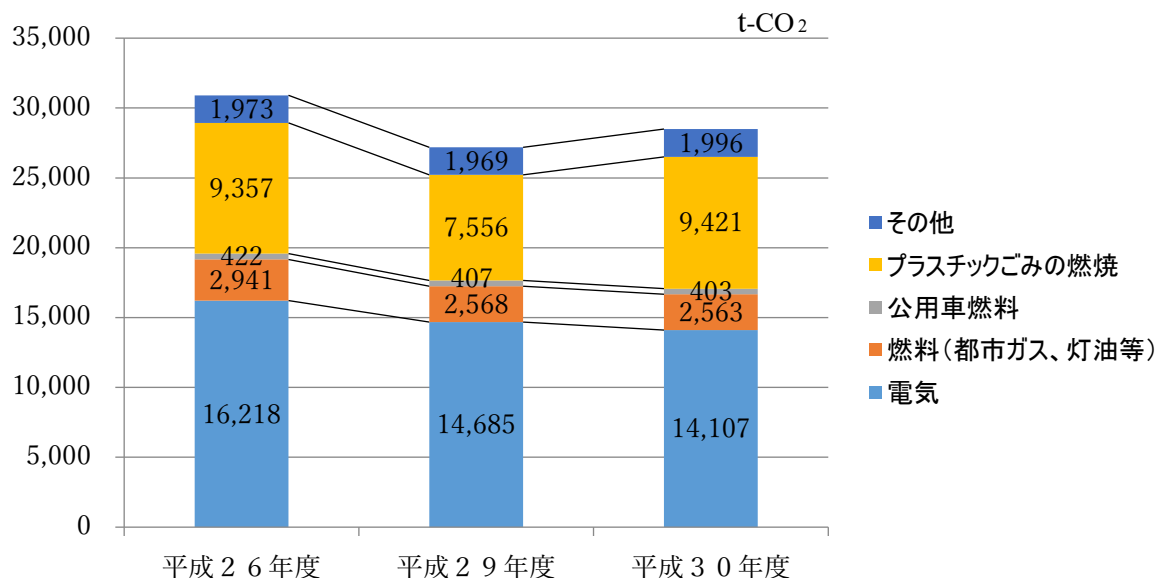
電気の使用については、使用量が減ったこと及び排出係数が下がった影響で、温室効果ガス排出量が減少しております。

燃料の使用については、市立病院において暖冬によって暖房機器の運転時間が減少したことによる都市ガスの使用量が減ったことと、清掃センターによる灯油の使用量が減ったことが主な原因です。

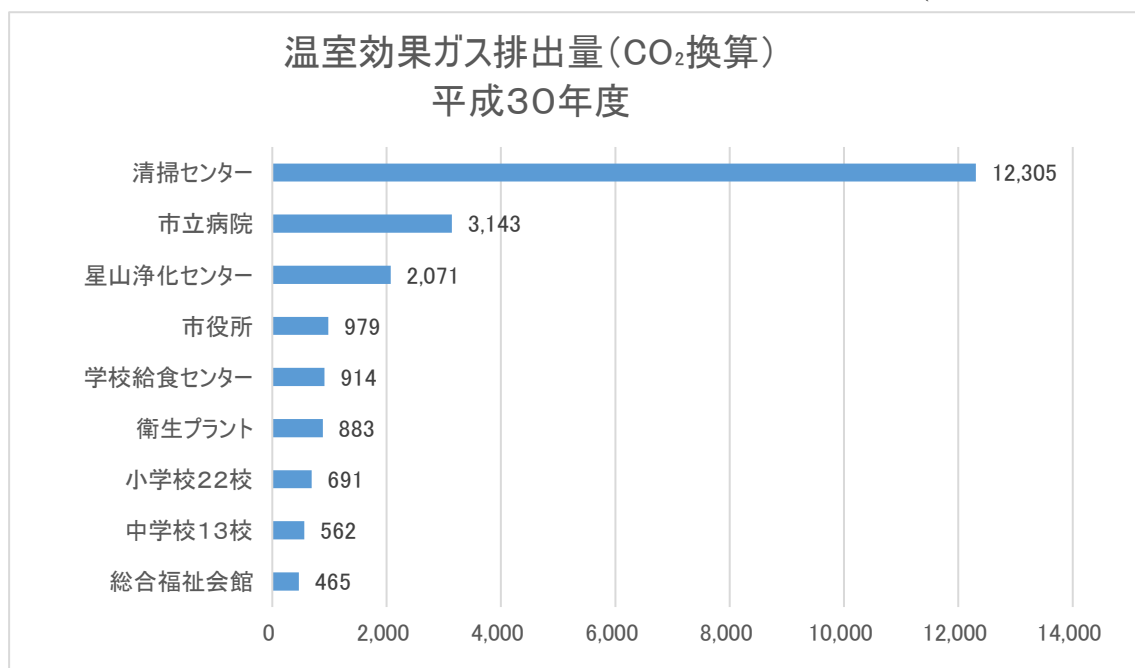
公用車燃料については、ガソリンの使用量が減ったことが温室効果ガス排出量削減の要因と考えられます。

プラスチックごみの燃焼については、燃焼ごみの全体自体は減少していますが、プラスチックごみの排出係数が増加した影響で、温室効果ガス排出量が増加しております。

その他要因としては、公用車の台数が増加したことでカーエアコンの使用が増えたことが、温室効果ガス排出量増加の要因と考えられます。



## (3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO<sub>2</sub>)(単位：t-CO<sub>2</sub>)

施設名	二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	メタン (CH <sub>4</sub> )	一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	合計
清掃センター	12,248	0.08	57	12,305
市立病院	3,143	-	-	3,143
星山浄化センター	1,433	201	436	2,071
市役所	979	-	-	979
学校給食センター	914	-	-	914
衛生プラント	825	45	13	883
小学校22校	691	-	-	691
中学校13校	562	-	-	562
総合福祉会館	465	-	-	465
合計	21,207	246	507	21,960

※市の事務事業全体で排出された温室効果ガスは、国の法律に従い、CO<sub>2</sub>の排出量に換算し、表記しています。

上図は施設別の温室効果ガスの排出量について、温室効果ガス別に示した図と表になります。

二酸化炭素については、プラスチックごみの燃焼からの排出量が多いことから、清掃センターが最も多く、次いで市立病院、星山浄化センターからの排出の順となっております。

一酸化二窒素については、星山浄化センターの下水処理からの排出が最も多く、次いで衛生プラント、清掃センターのプラスチックごみの燃焼からの排出の順となっております。

メタンについては、星山浄化センターの下水処理からの排出が最も多く、次いで衛生プラントからの排出となっております。

3. 平成30年度取組結果

(1) 省エネ設備の導入

施設名称	導入設備
市立病院	LED 照明(OP 室、病棟)
衛生プラント	LED 照明(IZ 循環ポンプ室、脱水機室)
市内小学校	LED 照明(白糸小、柚野小、大富士小)
あすなろ園	LED 照明(医務室)
中央消防署本部	LED 照明(事務室)
道の駅朝霧高原	LED 照明
埋蔵文化財センター	LED 照明(作業室)
市民文化会館	LED 照明(1階通路の一部、館内のトイレ、外灯の一部)、 空調設備の更新(事務室、応接室、喫茶室、清掃員控室)
中央図書館	空調設備の更新(コンピューター室、和室、事務室、応接会 議室)
清掃センター	空調設備の更新
芝川会館	空調設備の更新
芝川公民館内房分館	空調設備の更新
富士根南公民館	空調設備の更新

(2) 太陽光発電システムの導入(余剰売電及び自家消費)

施設名称	設置容量	売電状況
万野住宅 B 棟	9.499kW	余剰売電

(3) 公用車の利用状況

車	台数
ハイブリッド車	3台
電気自動車	2台